

『2023 年度学生生活実態調査報告書』刊行にあたって

本書は、学生センターが実施している「学生生活実態調査」の 2023 年度報告書です。

2020 年以降、学生生活は新型コロナウイルス感染症への対応のために種々の制約を被ってきましたが、2023 年 5 月に新型コロナの感染症法上の位置付けが 5 類相当に移行し、これに伴い本学においても行動制限は基本的に撤廃され、ようやくキャンパスにも学生の活気あふれる姿が戻ってまいりました。本調査は、行動制限撤廃後の 6 月 21 日から 7 月 30 日にかけて実施・回答されたものです。

本調査については、市ヶ谷副学生センター長の片桐満先生（経営学部）に分析をお願い致しました。詳しくは片桐先生による「調査結果に関する報告」（各編の冒頭に掲載）をお読みいただければと存じますが、ここでは学生センターの観点からいくつか気になった点について言及しておきたいと思えます。

まず、調査の回答数・回答率についてです。2021 年度は 1200 人・4.5%と低調だったため、2022 年度は周知方法等を工夫した結果、3190 人・11.8%と良い結果を得られたのですが、今回は 1768 人・6.4%と低調に逆戻りしてしまいました。回答数の増加に向けた新たな施策を検討しなければなりません。

学生生活における不安について（Q17）、「コロナウイルス感染の不安」を回答した割合は昨年度からさらに減少しています（24.8%→9.6%）。また、対面授業を原則としつつ、一部実施されているオンライン授業にもおおむね問題なく対応できているようであり（Q27）、かつ両者を併用すべきとする意見が多数を占めている点（Q31）からすると、コロナ後の授業形態もようやく落ち着くべきところが見えてきたようにも思われます。ただ、対面授業が増えた影響でしょうか、「モラル・マナーの低下・欠如」として「授業中の私語」を回答する割合が昨年度よりも増えた点（59.4%→69.0%）は、一教員として春学期前半に得た実感と合致しておりました。来年度、この割合が減ることを切に願っています。

サークル活動（Q39）については、新歓活動が中止・自粛を余儀なくされた 2020 年度こそ、参加していると回答した 1 年生の割合は大きく落ち込んだものの、その後は 60%台で推移しており、ある程度落ち着きを取り戻したようにも見えます。ただ、2022 年度から 3 年生・4 年生の参加割合が減っているのが、やや気になるところです。2020 年度にコロナ禍で新歓がうまくいかなかったことの影響なのか、それとも昨今の就職活動の状況が影響しているのか、あるいはそれ以外の要因によるものなのか。いずれにせよ今後も動向を注視する必要があるように思われます。

注意を要するのが、学内で危険な目にあっただことがあるかという問い（Q19）に対して、「政治セクトによる勧誘」との答えが近年にない高い割合（Q19-1、36.4%）であった点です。回答の母数こそ小さくはあるものの、市ヶ谷キャンパスだけでなく多摩キャンパスでも勧誘があったとのことであり、この点は学生センターとして大いに注意していかなければならないと考えています。

また残念だったのは、法政大学校歌を歌えますか、という問い（Q21）に対して、「歌える」との回答が 15%を割り込み過去最低を記録してしまったことです（14.8%）。佐藤春夫の作詞・近衛秀麿の作曲から成る法政大学校歌は、数ある大学校歌の中でも特に優れたもののひとつであり、法政大学が大いに誇りとすべきものです。にもかかわらず、これを覚えることなく卒業してしまう人が多いというのは、とても残念でなりません。もっとも、六大学野球の観戦に足を運んだりしない限り、多くの学生にとっては歌う機会がそもそもない、というのも事実でしょう。課外教養プログラムのスポーツ観戦の際に歌詞カードを配るなど、まずはできることから少しずつ裾野を広げていく必要があるのかもしれない。

以上、学生センターの目線から特に気になった点を挙げさせていただきました。

新型コロナの影響もようやく影を薄め、学生による主体的な活動の機会が少しずつ戻ってきています。もっとも、近年の学生を見ていると、授業とアルバイトに追われる毎日で、時間的な余裕がないという人も少なくないように見受けられます。アルバイトの経験も、もちろん学生の人格形成にとっては重要ですが、できれば授業（正課）とアルバイト（生活手段）のほかに、何かひとつでも、学生生活を彩る何らかの正課外活動にいそしむことのできる環境を整えばよいのに、と願うばかりです。厚生課の奨学金業務も含め、学生生活の時宜に応じたサポートを今後も続けてまいる所存ですが、そのためには本調査の継続的な実施がとても重要です。本調査の結果を有効に活用することで、学生生活をより良いものにしていくことができると考えております。

2023年12月

学生センター長 武生 昌士